

【第8期】第4回柳瀬川・空堀川流域連絡会

全体会議事録

■開催日時・会場

日時：平成29年2月20日（月） 14：00～16：00

会場：北多摩北部建設事務所 2階第1・2会議室

■出席者

都民委員8名／団体委員4名／行政委員6名／事務局3名

■議事要旨

【第1回議事の確認】

事務局

今年度は機会がなかったため、この場で第1回の議事録をお配りしました。

議事概要は、第8期の立ち上がりということで要綱等の確認、第7期のまとめ、座長・副座長の選出、今後の進め方についての意見交換、など。

膨大な量になるので、持ち帰って確認していただき、発言の主旨が違うなど問題があれば、事務局までお知らせいただきたい。

【現地視察会の報告】

事務局

<資料-4、資料-5にて概要説明を行いました。>

【平成28年度の工事について】

事務局

<資料-6にて概要説明を行いました。>

①柳瀬川防災工事

- ・場所は武蔵野線よりも下流の清瀬市下宿二丁目
- ・流域連絡会でも説明させていただいたが、河床が洗掘されて護岸が壊れている箇所を整備する工事
- ・昨年度は契約不調になり応急処置を施したが、今年度再発注して平成28年10月から工事を行い、既に整備を完了しています

・概要：護岸工、根固めブロック、ブロック張工、張芝

②柳瀬川防災工事（その2）（緊急施行）

- ・前回視察していただいた金山調節池下流の護岸崩壊箇所
- ・台風9号の出水で左岸側が崩れて木が傾いていた箇所を、緊急施行で平成28年9月から平成29年3月中旬の工期で、現在整備を進めています
- ・概要：護岸工、根固めブロック、かごマット工、吐口工

③柳瀬川金山調節池しゅんせつ工事

- ・流域連絡会でも説明させていただいたが、長年土砂が堆積してきて、ビオトープとしての維持管理上も望ましくないため、市民からのご要望もいただいていた

- ・昨年度は契約不調になり、今年度再発注して契約に至り、平成29年3月までの工期で施工中

- ・8月の台風でさらに土砂が流入し、当初578m³のしゅんせつ土量の予定が718m³に増えました

④柳瀬川防災工事（その3）（緊急施行）

- ・西武池袋線よりも上流、とんぼ橋の少し下流の右岸側、台風9号で天然河岸が崩壊した箇所

- ・平成28年12月からの契約だが、現場の測量調査から設計や工法の検討などを緊急で行い、年明けから現場に入って工事を進めています

- ・概要：護岸工、法面保護工、かごマット工

⑤空堀川河床整備工事（その2）

- ・平成27年度に施工した新合流点のすぐ上流の河床整備

- ・落差工に向かう擦り付け部分と一般部では構造が異なっています。一般部は、隠し護岸を入れているが、地元のみなさんとも意見交換をして、ブロック積からかごマットを埋める工事に変更しています。まもなく本格的な工事に入ります

- ・概要：河床掘削工事、ブロック積護岸工、かごマット多段積、高水敷工、粘土張り工、仮設工

⑥空堀川緑化整備工事及び維持工事

- ・空堀川河床整備工事（その2）の箇所よりも少し上流、梅坂橋～大沼田橋の区間で、施工箇所は飛び飛びになります

- ・川沿いの管理用通路の舗装部が剥がれたり古くなっているところを補修する維持工事と、新しく樹木を植栽する緑化工事を併せて施工

- ・工期は平成28年10月～平成29年3月だが、最近、工事が完了しました

- ・概要：中木植栽工11本、低木植栽工1,087本、地被類植栽工11,888鉢

⑦空堀川整備工事（その202）

- ・下砂橋上流～新丸山一の橋の下流あたりまでの右岸側にある旧川の整備

- ・現在契約手続き中、今年度から来年度平成30年3月までの工事を予定しています

- ・旧川沿いの住民との意見調整を経て、工場の排水が放流されている宮前一の橋より上流側は埋めて上を緑道に、下流側はその排水を流すことも含めて川として残し、護岸整備を行い管理用通路に遊歩道を作る予定。完成後、緑道は東大和市が管理します

- ・概要：ブロック積護岸工、舗装工、防護柵工、カルバート工、親水護岸工、植栽工一式、補償代行工一式

⑧空堀川整備工事（その64）

- ・前回視察した東芝中橋付近

- ・橋の架け替えと新川と旧川の取り付け部分の整備工事

- ・すでに工事に入っているが、借地交渉の関係で切り回し道路が変更になり、前回と違う平面図になっている。現在調整手続き中

- ・工場の排水の流出口の切り換えも、この工事の中で行います

- ・概要：ブロック積護岸工、土工（掘削）、擁壁工、管理用通路工、雑工一式、仮設工一式／橋梁工事

⑨空堀川整備工事（その72）

- ・旧芋窪街道の中砂橋の下流側
- ・掘削工と護岸工、真ん中に西下砂橋という新しい橋を架ける新川の工事で、既に完了しています
- ・この区間だけ先行して作っているので、水はまだ旧川を流れています
- ・概要：護岸工、土工（掘削）、管理用通路工、仮設工一式／橋梁工事

⑩奈良橋川整備工事（その2-4）

- ・前回視察した空堀川・奈良橋川の合流点付近
- ・契約上の工期は平成28年2月～平成29年3月だが、狭い錯綜した現場で、道路の切り直しなど地元への対応があつて、工期を延伸する予定
- ・高木橋の北、合流点のすぐ上流に北高木橋という新しい橋を架け、その上流から合流点までの整備が終わると、この工事が完了します

座長

現在施行中の工事について説明させていただいたが、ご意見、ご質問があれば。

団体委員

前回視察した護岸被災箇所では、何本くらい木を伐採してしまったのですか。説明では1本という話だったと思うが、実際は10本以上切っているようですが。

事務局

倒れかかっていたのが1本。それ以外も切っています。切らないと護岸を作れないので、工事に支障があるものは切りました。「残せるものは残しますが、切る必要があるものは切ります」という説明を、視察会当日にしています。

都民委員

植樹の計画はないのですか。

事務局

無いです。残せる範囲のものは残しています。

団体委員

空堀川河床整備工事（その2）、一般部の標準断面図でかごマット多段式という考え方は非常にいいと思います。他のところはあまり湧水が出ませんが、ここは湧水がけっこう出るので。カワセミの巣もあつて、非常に環境がいいところです。水路の両側に在来の高水敷があつて、カワセミが巣を作る場所になっています。こういう場所は、将来的にもカワセミの巣ができる余地を残す必要があります。高水敷にも、洗掘されないギリギリの幅、深さでかごマットがセットされているという感じで、設計的にはわかりますが、高水敷はできるだけ緑化できる、植生が生えるよう土であつてほしい。たとえ10cmでも植生が回復する余地があります。こういった配慮を今やっておかないともう永遠にできないと思うので、将来の川の形をイメージ、想定した上で決めていってほしいと思います。落差工のすぐ下流や曲線部の外周側など、場所によっては必ずしも「定規断面」にこだわる必要はないのでは。それに基づいて深みを埋めてしまったり、そういう必要性はないのではないかと。川が自分のエネルギーを使って川の自然を作る可能性があるところ、そういうところについては、それを考慮した断面や堰堤の作り方を、本庁とも相談しながら、これから創造するというか、チャレンジする。それをやっていただければ、空堀川の将来のイメージとして、地域に馴染める川になっていくだろうという気がしますので。

副座長

工事についての質疑の時間を決めておいた方がいい。そうしないと、今日終わりません。工事箇所

はいくつもあるから、平均に割り振って質疑するように配分しないと。下流部から順番にやっていると上流部の質疑ができなくなります。

都民委員

これは重要な問題だから。去年から、会議を1回やっただけで、見学会が2回、その間にどんどん工事が進んでいますが、今までなにも説明がなかった。「工事をどんどん進めている」、それでいて「ここで言わせない」ということであれば、「流域連絡会ってなんですか」ということ。流域連絡会はお互いのコミュニケーションの場です、と言っているわけだから、それはやりましょう。

副座長

言わせないわけではない。限られた時間の中で、膨大な議題になっているので、「時間配分を調整する必要がありますよ」と事務局に言ったら、何分までという話なので、そこをみなさんにお伝えした上で、それでも足りないというのであれば。ただ、もう50分しかない。おそらく工事については、重要だから相当意見が出てくる。最低でも30分くらい設けないと、30分でも足りないと言うかもしれない。そうすると今日は、最後までは無理かもしれない。その判断を最初にする必要があると思う。その上で進めていただきたい。例えば「将来像」「引き継ぎ」は、見ておいていただいて後に回して、工事について時間を割くようにしてはどうですか。

都民委員

みなさんある程度土木関係に精通されているので、そういう話をされるのだが、まったくもってつまらない。隣にいる委員に聞いても、よくわからないと。できれば、資料-8（空堀川の将来像）のような内容を討議していきたいと思います。河川改修工事は、もう実施設計に基づいて行っていると思いますが、その場合、その工事について委員の方々が「こういう工法がある」と言ったところで、今さら変えられるのですか。

事務局

今やっている工事は、もう進んでいる工事なので。

都民委員

やればできる。やる気があるかどうかだ。設計変更なんて必ずあるのだから。

座長

今後、同様の工事が続いていくので、その際の参考にはさせていただきます。ただ、今の工事をどこまで変更できるか、正直に言って、段取りの関係もあるので方向修正が難しいのが実情。やはり工事の内容については、みなさん色々ご意見をお持ちだと思うので、ひと通り資料の説明をさせていただいて、その後から、工事の内容についてご意見をいただくということによろしいですか。

※各委員了承

【平成28年8月 台風9号による被害と対応について】

事務局

<資料-7にて概要説明を行った。>

台風9号では、管内では20数年経験がないくらい色々な被害があった。以下が、被害を受けて対応を行った箇所

- ①柳瀬川・金山調節池下流左岸：先ほどご説明した、護岸崩落と倒木があり、緊急工事を行っている箇所
- ②柳瀬川・金山調節池：大量の土砂が流入し、除去や清掃を行いました

- ③柳瀬川・金山橋上下流右岸：河川内通路の転落防止柵が倒れ、通行止め措置をして、その後復旧
- ④空堀川・馬頭橋～石田橋：河道内に多数の倒木があり、緊急施行で約140本の伐採・伐根を行いました
- ⑤空堀川・新庚申橋上流左岸：旧川接続部の仮護岸の大型土嚢が流出したため、大型土嚢積を復旧、管理用通路を閉鎖。数日前に通行止めが解除されました
- ⑥空堀川・芝中調節池：大量の流木やゴミが流入し、撤去・清掃を行いました
- ⑦柳瀬川・とんぼ橋下流右岸：天然河岸の侵食・崩落があり、緊急施行により工事を実施中
・以下が、溢水した箇所
- ⑧柳瀬川・よもぎ橋：左岸が低いため、左岸側一帯が冠水
- ⑨柳瀬川・秋津橋：完全に護岸を超えて溢水、上流側の市の緑地にも水が溜まりました
- ⑩奈良橋川・宮前二の橋：空堀川との合流点工事箇所の上流端あたりで、平成11年にも溢水した箇所。今回も橋のところから溢水
- ⑪奈良橋川・日月橋：橋梁周辺や道路が冠水
- ⑫奈良橋川・村山橋：欄干を超えて溢水、旧青梅街道周辺が冠水
- ⑬空堀川・新薬師橋上流：暫定調節池と旧青梅街道を挟んだ上流の左岸側を中心に、川沿いに冠水（新薬師橋～本町四丁目付）
- ⑭空堀川・中砂橋下流：武蔵村山河道内調節池の下流端にある橋の下流。右岸側の護岸が低くそこで溢水。半分以上が畑で、民家への被害はあまりありませんでした

都民委員

気象庁で公表している所沢では時間76.5mm、東村山市に聞いたら74mmと言っていますが、そういうデータも載せた方がいいのではないですか。今改修しているところも50mm対応にはなっておらず30mmだ。逆に言えば、その倍以上でよく耐えたというのが、正直なところだと思います。60cm余裕高があるから、それが効いているのでしょうが、北多摩北部建設事務所では、各市に2箇所くらいは雨量計を設置していると思いますが、やはりそういうデータを出して。東村山で「川が溢れるから川の中にある木を全部切れ」と言う方もいて、ちょっと問題になりそうなので。今、市議会で「どうなんだろう」という話をしているところですが、やはり、きちんとした情報を出していただく必要があるかと。たぶん70mmくらいは、上流から下流まで耐えるのではないかと思います。

事務局

何箇所か雨量計があって、基本的には70mmから80mmの間を、流域全部で記録しています。今回溢れたのは未改修のところ。下流側は、暫定河床にはなっていますが、護岸ができているところでは溢水という事象は一箇所も起きていません。ただ地元の方から、清瀬橋は「見たこともないくらい、橋桁まであと1mくらいまで水位が上がった」とか、中流の青葉町のあたりでも「すれすれまで来ていた」というようなお話しがあったので、そういう状況だった、ということをお話させていただきました。

【今後の進め方及び予定について】

事務局

<資料-8(1)、資料-8(2)、資料-9にて概要説明を行った。>

今後の進め方を議論する上で、次回以降も参考にしてください

資料-8(1)空堀川の将来像(第7期まとめ)

資料-8(2)

①第7期から第8期への引き継ぎ事項

②「第8期第1回」における主な意見

③「第8期第2回(現地視察会)」における主な感想・意見

④「第8期第3回(現地視察会)」における主な感想・意見

資料-9第8期 開催経緯及び予定

4月は行事が多く、会を運営するための委託契約が間に合わないので、第5回は4月下旬～5月連休明け中旬に開催したいと思います。

議題は、平成29年度の工事予定と情報提供及び意見交換。設計が終わっていない段階なので平面図など詳細な情報は提出できませんが、後々、随時提出していきます。

第6回は7～8月頃と考えているが、今後どのような形で進めていくかが未確定なので、あくまで仮の予定

座長

休憩も取らずに申し訳ないが続けさせていただきます。残り30分ほどで、工事に対するご質問・ご意見、そのあと今後の進め方についてのご意見ということで。

事務局

今日、団体委員からの資料を配布させていただいていますが、これについてなにか。

団体委員

これは読んでいただければわかるので、川のことに関心がない方でも、わかる内容にしてあります。

座長

では、工事の内容についてご意見・ご質問がどのくらいあるか、ご意見・ご質問がある方は挙手いただけますか。そんなにはないようなので、10分くらいで。先ほど、団体委員から河床整備についてご意見をいただいたので、設計担当者からご説明させていただきます。

事務局

団体委員からご要望があった、湧水が多いところではかごマットを使用してほしいというご意見について、この箇所は直線部になっていて湧水があるということも確認しているので、かごマットを採用させていただいたが、落差工やカーブの水衝部など、どうしても固めなければいけない場所が出てくるので、そういったところではブロック積護岸や、少し硬めのものという対応を考えていきたいと思います。覆土の件については、標準断面図に示してあるように、高水敷では硬い部分を下げても覆土をしたいと考えて、石を張った上に覆土を10cm程度行う予定になっています。かごマットやブロック積護岸についても、なるべく元の護岸に近づけるような形で、覆土の部分を広く作りたいと思っています。標準断面図で、かごマットがある左側の石積の部分については硬いものを入れずに、なるべく覆土にする形で、川の中を自然に、低水路敷を水が流れていく、という対策を考えています。

団体委員

あまりくどいことを言いたくないが、今のご説明、お考えに対して、そこからさらに一步突っ込んでもらいたい。それでは「ちょっと自然な川じゃないな」という感じがするので。深さの問題も、それから施工方法も仮設とか施工の過程があって、その中でどうやって活かしていくかという。出来上

がった断面ではなく、施工の過程でどうやっていけば、活かしていけるのか。今ご説明されたことをさらに練って、やっていただきたいと思います。

座長

またそういう工夫も考えていきたいと思います。今回は、かなり色々な方からご意見をいただいて、今説明したような主旨で、最終的にこのような断面になっているのだが。

団体委員

今のところで粘土張りをやるということになっていますが、清瀬の梅坂橋から下流は必要ないと思いますが。地下水位がけっこう高く水が上がってくるので、水がない時期は2～3カ月くらいしかありません。必要ないと思いますが、なぜこれをやるのですか。

事務局

石田橋の水位計のデータを見ると、年間半分くらいは計画河床より水位が上がリ、あと半分くらいは計画河床より低いという結果でした。そうすると、水位が低い時期には水がなくなってしまうので、真ん中だけでも粘土張りをして、その横は粘土張りをしないので水位が上がった場合は横から出るといふ逃げを作って、粘土張りをを行う形を考えました。

団体委員

そこまでお金をかけてやる必要はないのではないですか。

都民委員

別のところから、希望として出ていたから。

事務局

継続して流すということが必要になってくるので。上から流れてきた水を下に浸み込ませないというのが粘土張りの役割になるので、上から継続して行うことを考えています。水が少ない時にも、真ん中だけは確保したいということが目的。実際にやってみて現状を見ながら、今後考えていきたいと思っています。

団体委員

やらないでにおいて、だめだったら張ればいいのかではないですか。

都民委員

でも、ほとんどやっていません。東大和では、わずか200mくらいやっただけで、効果があったのかどうかわかりません。だから、ある程度やってみて、どうかということを見ていかないと。土木というのは経験工学だから、頭で考えただけでは上手くいきません。やはり、必要だと思います。やってみて、結果を見てみましょう。

座長

粘土張りの話は一旦置かせていただきます。

都民委員

今の「空堀川河床整備工事(その2)」について。この区間だけであればいいのかもかもしれませんが、この断面図からいくと、兩岸にかごマットを設置してここまで掘る、真ん中も掘る、そうすると土が残るところがないと思います。今の土が、表土が全面的になくなってしまふという形になる。そうすると、そこにいる生物が生きる場所がなくなってしまう。文献などを見ると、河川改修をやる場合には、例えば片側ずつやるとか、少し飛び飛びでやるとか。この調子で10kmやったら、10kmなにもなくなってしまう。せつかく20年、30年近く経って、そこに草が生えたりして、色々な生物が棲んでいる。植物も、空堀川に250種類くらいあるらしい。この工事では無理かもしれな

いが、次のステップでは、ぜひそれを考えていただきたい。そうしないと、せっかく自然が戻ってきているのに、まったく最初の状況に戻ってしまいます。次に「空堀川整備工事（その202）」、これは左側と右側で構造が違います。高木橋に向かって右岸側は、先ほど話があったようにカワセミの巣があるところですが、ここをブロック積にしてしまったら、カワセミが棲むところなくなります。それはちゃんと考えてあげないと。カワセミは、土に穴を掘ってそこに巣を作るわけで、ブロックのところには卵を産めないから。カワセミブロックも見たことがありますが、現実にはまったくだめで、そんなところには巣を作らない。左岸側にも遊歩道とか、管理用通路か、字が見えないのでわかりませんが。

事務局

宮前一の橋から下流の右岸側を、ずっと歩けるようにという形を考えています。

都民委員

だから、右岸側にそれを作るのは不相当だと思います。もし、どうしても作るのなら左岸側。右岸側の、合流する手前は非常にいいところで、やはりそこに巣を作っています。上流側は、カルバートを入れて上を緑道にするということで、私たちはずっとこれに反対しているのですが。理由は、まずひとつは緑道の必要性がありません。みんな新しい川のところを歩いています。ここを作ったとしても、おそらく歩く人は一人もいないと思います。東村山でも同じくらいの幅で230mくらい作ったところがありますが、両側が鬱蒼としていて、怖くてそんなところはとても通れません。さくらまつりの時にしか、人が歩いているのを見たことがありません。もうひとつは、カルバートにすることによって貯留機能がなくなってしまいます。今、旧川でかなり貯留されている部分があると思います。新川に流れていて、それはそれでいいのですが、水位が上がればここはかなり水が溜まります。調節池みたいな形になっていると思います。カルバートにしたら、まったく溜めておく機能はないと思います。それからもうひとつ、これを埋めてしまうと水面が見えませんが、なぜそれが危険かと言うと、ここはもともと旧川があったところだから地形的に一番低い。新川はそれより高い。だからここを埋めてしまうと、いきなり下から水が湧いてくることになります。非常に危険な状態になると思います。防災上も、ちょっと問題ではないですか。だから、これをやることは大反対だ。「空堀川整備工事（その64）」だが、東大和橋の工場の排水を切り換えるということですが、以前のように、いきなり新川に切り換えてしまうのか。新川ではあまり水が漏らないということを確認してから切り換える分には、まだいいと思うのですが。一昨年だったか、先ほどの被災したという場所の下流で、夏くらいに切り換えました。それで、東村山では入ってくる水が半分くらいになりました。現状、東村山の延長6kmではほとんど水が流れていません。その源になっているのが、今、工場の水だけです。以前は奈良橋川からも水がきていたけれど、今はほとんどありません。

副座長

なくなった。夏、完全に枯れる現象が上流部で起きているので。

都民委員

ちょっと考え方自体を。本当にそうなると、空堀川は完全に死んでしまいます。総合学習などで子どもたちと一緒に網で魚を取ったり、釣りをするというようなこともやっていますが、去年ぐらいから、もうほとんど水がないのでやりようがありません。北多摩北部建設事務所としてよく捉えていただいて、対応を考えてください。

座長

色々のご意見をいただいた中で、できる部分はやらせていただく。無理なものもあるかとは思いま

すが。

都民委員

そう言っていて、今の状態になっている、20年、30年やってきて。「次に考えさせてください」「次に考えさせてください」で、どんどん悪くなる。それが現実です。

副座長

今、カワセミの話がされていた「空堀川整備工事（その202）」ですが、この断面図を見ると親水部分はないわけですか。ちょっと水に触れられるような場所が、どこかに。

事務局

下流の新川と旧川が交わる場所に、川に下りられるような階段を作る予定です。

副座長

途中にはないのですか。途中にあると、なおいいかと思いますが。

事務局

途中には考えていません。旧川にカルバート橋という橋を架けて、旧川から新川に繋がるようなルートを作る予定です。

副座長

いずれにしても、途中の箇所でも親水護岸ができないですか、それからカワセミへの配慮、そこだけお願いします。それから、住民説明会を、もう1回2回やる予定はあるのですか。

事務局

「空堀川整備工事（その202）」については、やる予定はありません。

副座長

粘土張りの話も出ていましたが、「空堀川整備工事（その202）」のところで、水枯れ対策という意味で、新川部分に粘土張りを行うのか、この時点でははっきりしていませんが、考え方を示してください。

事務局

東芝中橋からの水源があるので、次の工事で新川に粘土張りを行っていく予定です。

座長

最後に今後の進め方についてだが、今日決めるのは時間的に無理かと思うが、ご意見がある方は挙手いただければ。

都民委員

最初は座長が指名して発言をしましたが、Aという委員が発言した後にBという委員が発言する。途中で勝手に発言をして、どうやって議事録を作るのか。議事録は、一から十まで全部書くのでしょうか。みなさん委員として参加されているのだから、ちゃんとした会議として、挙手をして座長が指名をして、そこで発言した方がいいかと思いますが。

座長

こちらの不手際もあって申し訳ありません。それは、その通りだと思います。

都民委員

興味があるか無いかといたら無くはないが、「こういう工法をやったらこういうふうに水量が確保できる」ということを念頭に、みなさん発言されているということはよくわかりますが、いかんせん内容が細かすぎて「だからなんなの？」みたいな感じで疲れてしまいます。せっかく今日、委員の方に手弁当で来ていただいたのに、何も発言されずに帰るといのはいかがなものか。なにか思いが

あつて参加されていると思うので、発言できる機会、場を。途中で座長や副座長が「〇〇さんどうですか」と振ったりしないと。過去からずっといる方々が、一方的に工事の話なんかをされても、ちょっと面白くないかなと。

座長

本来であれば、都民委員の方、団体委員の方全員にご発言をお願いしたいと思って、前回、前々回はお一人ずつお話しいただきましたが、今回はちょっと時間的な制約があつて申し訳ありません。今回は、今言われたようなことを配慮して進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

団体委員

次は4月か5月中旬、それから7月。こんなに間を開けないで、月に1回やっていたわけだから、できればそういう形でやっていただきたい。それから、先ほども話に出ていたが、「ここではこういう工事をやります」というような説明がなく、いきなり「こうやりました」という報告なので、連絡会の時に「次はこことここを、こういうふうに工事しようと思つています。これについてご意見いかがでしょうか」というような形でやってもらいたい。「もうやっちゃっている。ここでは聞くだけ」というのでは、なんのための会議かわかりません。

座長

今年度28年度は、工事の説明の時期が遅きに失したというのは、その通りだと思います。なるべく先手先手を打つて、スケジュール的に難しいところもありますが、ご意見をいただいて、できるものは設計に反映するといったタイムスケジュールを考えながら、進めていきたいと思ひます。

都民委員

以前から、例えば「大体この辺はこのくらいにやるつもりです」というスケジュールを示していただきたいと言つているのですが、出してもらえません。それがわかれば、大体この時期で、例えばこういう議論をして、それから北多摩北部建設事務所として設計を終わつて、今度は工事を発注して、やはり2年ぐらひはどうしてもかかると思ひます。だから、そういうことをスケジュールに組み込んでやっていただかないと。私も第6期からですが、第8期になるにあつて、知人が4～5人「もうこんな流連じゃあ行つてもしょうがないから、俺やめる」と言ひました。なんとか出てくれないか説得しましたが、やはり、そこだと思ひます。

座長

そう2年前とか。そうでないと、なかなかその工事には反映はできないのですが、河床整備についても今後ずっと続いていくわけなので、今やつている工事についていただいたご意見を、できるものはその次の工事、またその次の工事に。

都民委員

いや、それは北多摩北部建設事務所が全部わかつているという前提でしょう。我々は、地元にいるから、空堀川を毎日のように見に行けるわけです。そういう人間の意見というのも、やはり少しは取り入れていただいて、設計に反映していくということが。それから過去にやつたところがどうなつているのか、まったくそういうことを考えていない感じです。過去にやつたブロックなんて、みんななどもガタガタになっています。それでも、相変わらず今回も。補修工事はしょうがないかもしれませんが、おそらく同じことの繰り返しでしょう。まったくフィードバックというものがありません。

副座長

今の委員の発言と重なりますが、次回第5回は、まさしく工事予定の話になります。今の話を踏まえて、できるだけ早い時期にどういう予定になつているのかを示すという意味で、ぜひ開催を早くし

てもらいたい。色々と事務局の関係があるかもしれませんが、工事予定をできるだけ早く流域連絡会の中に落としてもらうということが大事だから、私からもぜひお願いします。

団体委員

テーマをふたつくらいに絞って。川というのは二面性がある。大水が出た時と、川を楽しむ。だから工事も、川に親しむための工事と、洪水を防止するための工事と、二面性があるわけです。工事はやったけれど、楽しめる川なのか、遊べる川なのか、これは洪水だけの川なのか、その辺のところを絞ってやっていかないと、大雑把すぎてまとまりがつかないのではないかと思います。

団体委員

時間がないので三項目。一点目が、“柳瀬川・空堀川流域連絡会、行政と市民による連携と協働”と、この“協働”が足されたところが、前とは違ったポイントがあるかなと思います。要するに、手を合わせてワークショップ的にと、そういう話があるかなと。二点目は、来年度の工事において、第7期にまとめた『空堀川の将来像』のポイント、「ここを活かしました、ここに親水をやりました、ここに河川環境をつくりました、ここに水を増やす検討をしました」、そういったポイントを、必ずひとつくらいは活かしていただきたい。三点目は、今、委員から出た話で、やはり洪水と河川の通常の管理というのは、相反する部分と共通する部分があるので、流域連絡会の議題として、ひとつは洪水対策的なもので河川改修があり、その河川改修の中に、いかに将来的な河川管理の思想が入っているかどうか。改修と管理、このポイントを、やはり流域連絡会の中で明確な議題の二本柱にしていただきたいと思います。

座長

29年度の工事は、もうすでに設計が終わっているような状況になります。次回ご意見をいただくわけですが、それが29年度に無理なら30年度に活かしていく。ちょっと先先のスパンになってしましますが、そのような形では進めていけるかと思っています。みなさんご存知のように連絡会は情報公開、意見交換の場であり、全部この場で承諾をいただいてから工事を発注するというのは、タイムスケジュール的に厳しいものがあります。そこだけご理解いただければと思っています。

【その他】

団体委員

子どもたちから川を取り上げないような工夫をしてほしいです。今、色々な工事をやっているが、そこで先生方が、川の生物だとか植物だとか、環境学習で教えています。それが石張護岸、下が粘土張り、「どこに生物がいるの」ということになってしまうから、その辺の配慮をしながら工事を進めてほしいです。